

玉祖地域自治会連合会との意見交換会

※ 意見交換会での議員の発言は、市議会としての総意ではなく、あくまで議員個人の意見です。

- ◎ **日 時** 令和4年8月5日（金）午後6時30分から午後8時まで
- ◎ **場 所** 玉祖福祉センター
- ◎ **出席議員** 10名
- ◎ **玉祖地域自治会連合会参加人数** 20名

テーマ1「地域での佐波川水害タイムラインの活用について」

（Aさんよりテーマについての説明）

○ 趣旨

- ・ 災害のマネジメントサイクルの事前防災がテーマ。
- ・ 事前防災のため地域でのタイムライン・防災計画の策定が必要なのではないか。
- ・ 行政が作成したタイムラインを住民に周知し、それぞれの地域が判断して対策を考えるべきではないか。

（A議員）

- ・ 浸水状況が見て分かるような市内の模型を作って新庁舎へ設置してはどうかと、市に提案したことがある。文章ではイメージが難しいが、模型を使って目で見ると分かりやすい。市に再度、提案したいと考えている。

（B議員）

- ・ 自主防災地元ではタイムラインに従って行動するというところまではいっていない。災害時に全員が避難できるよう（独居高齢者等の）地域住民の生活状況を把握することに力を入れている。タイムラインをベースにスタートするというよりは、市の避難の指示の段階によってどう行動するのかということに力を入れている。

（C議員）

- ・ 避難指示段階に応じた行動は地域の防災訓練の中で共有している。コミュニティの状況の把握がまず大事。
- ・ 行政からの情報が細かすぎると混乱につながるのではないか。内容を把握している方がしっかりと住民に知らせていくことが必要なのではないか。

（D議員）

- ・ 佐波川沿いの開出に住んでいる。佐波川の水害に関して、地域の方の関心が高い。
- ・ 昨年、一昨年と自治会長をしていた時に、地域の防災ニュースを作成していた。
- ・ 市が避難判断水位を示しているが、夜間であれば、平屋のお宅は近所の2階に避難したほうが良い等の周知を行った。
- ・ 佐波川タイムラインとは別に、市から出される4段階の避難指示の内容の周知がまず必

要ではないか。

- ・ 6月議会で、「まるごとまちごとハザードマップ」について質問したところ教育委員会を通じて取り組んでいくとの回答を得た。災害の「見える化」が進んでいくと思う。

(E議員)

- ・ H21年災害を鈴屋で経験したため、防災については地域でいろいろと行っている。
- ・ 今年の防災訓練では、連絡網が繋がらない家もあり、タイムラインの周知はされていない。早めの声掛けを行い、近所の方と手を取り合って避難できるようにしたい。

(A議員)

- ・ H21年災害の時職員として、避難を呼びかけたが、「私が家にないと土嚢を積めない」というような方がおられ、「家は建て替えればいいが、命は失ったら返ってこない」といって避難を呼びかけた。皆さんもそのように呼びかけていただきたい。

(Aさん)

- ・ 山口市の水害のあった地区で、水没の水位を示す看板を表示していたが、地価が下がるということで撤去されたそうである。「見える化」をするとそういう問題が起こる可能性があるから、行政もやりにくいのではないか。
- ・ 地域で昔から住んでいる方が、その経験を活かし情報を提供していただき、地域自らが対応を考えていかなければならないのではないか。
- ・ 地域が、助け合うという部分で一番重要な役割を担っているのではないか。
- ・ 市内では防災士が増えてきた。自治会長の交代サイクルが早くなる中、防災士中心に地域の防災を進めていくべきではないか。
- ・ 佐波川右岸は左岸に比べ護岸が圧倒的に低いので内水氾濫が起きる可能性がある。地域の者がそういった状況を把握しながらリスクを知って取り組んでいくベースとして、佐波川タイムラインを活用していくことが必要であると考えている。
- ・ 10月には玉祖地区で国・県・市を招いて情報を提供してもらって、地域でどのように取り組むのか考えていきたいと思っている。

(Bさん)

- ・ タイムラインについては2つのタイムラインがあり、避難勧告に着目したものとインフラに着目したものがある。
- ・ 玉祖地区の特徴として、大雨による災害時は洪水と土砂災害が複合で発生する。タイムラインはほとんど洪水に伴うものを想定して作られている。
- ・ 実際に災害が起これば土砂災害がどこで起きるのかを想定することが重要。
- ・ 市が土砂災害の高齢者等避難を発令した後、水位が上がってきた場合高齢者等避難を発令するのか。
- ・ 左岸から見れば佐波川は天井川であるが、右岸からはそうではない。高齢者等避難が発令されるような状況では、一気に内水浸水の水位が深くなる。
- ・ 第1のタイムライン（避難勧告）にそってマイタイムラインを作ろうという授業が一部小学校で進められている。

- ・ 右田玉祖側と市街地側が同じ避難情報を発令する今のやり方が妥当か。
- ・ 全員避難しなければならないのは、玉祖・右田側では高齢者等避難ではないか。
- ・ 危険水位になったときには第2のタイムラインの様にインフラに影響ができれば避難が難しくなる。左右両岸で同じ情報を出してもいいのか。
- ・ 小学校の授業でも、両岸で避難するタイミングを変えるような説明はしていない。左右両岸での状況の違いを理解していただきたい。
- ・ 内水浸水を考えたときに樋門・用水路の扱いも重要になるが、これらに関わる問題についてもご認識いただきたい。

(B議員)

- ・ 避難情報の発令は、地域によって違っていると思う。行政もそのあたりは認識しているのではないか。

(A議員)

- ・ メールサービスで自治会単位の避難情報が出ている。
- ・ 樋門の管理は地元の方や業者に委託している。自分の地域では、逆流が始まる瞬間に樋門を閉めてもらっているが、高齢化しており、危険なため、引き受けてくださる方が少なくなってきている。
- ・ 用水路についても、大雨が降る度に川に入り対応している。国費がついて、圃場整備等してもらえれば安全だが、市や県の予算で既存の河川に水門を取り付けるのは予算的に難しいのが現状。

(Bさん)

- ・ 佐波川の水位で警報が発令されるときに玉祖・右田側の内水浸水にも配慮していただきたい。
- ・ 土砂災害と洪水の事態の区別は実際にされている。しかし、佐波川の水位が氾濫危険水位になったときに玉祖・右田側で分けていたかというところではないのではないかと思う。
- ・ 内水浸水が避難に大きな影響を及ぼす玉祖・右田地区の状況をご理解いただければ幸いである。

(D議員)

- ・ 市のHPに、これまで内水氾濫した箇所がわかるよう印が付いて掲載されており、注意喚起が行われている。(後に確認すると、HPから削除されていた。)
- ・ 災害時の佐波川右岸と左岸の違いについては再認識した。今後は考えていかなければと思う。

(A議員)

- ・ 降雨時の佐野堰の開門について情報提供

(Cさん)

- ・ 資料にある新橋の観測所の水位4.6mは海拔に直すと何mか。

(Aさん)

- ・ 新橋の堤防の高さは海拔12mである。

(Aさん)

- ・ 佐波川水害の避難情報を今後市がどのように出してくるのか。
- ・ 昨年の8月14日に土砂災害高齢者等避難の情報が自治会単位で発令されたが、自治会は飛び地になっている場合がある。自治会単位で発令されることが必ずしもよいとはいえないのではないか。我々の立場からすると地域単位で発令してもらって、後は地域で判断するという発令の仕方もあるのではないか。
- ・ 議員の皆さんは、地元地区の災害時の小学校の引き渡し等について把握しているか。

(F議員)

- ・ 華城小学校では引き渡し訓練が行われている。保護者が迎えに来られない児童は、学校で時間まで預かるという対応をしている。地域の危険個所の把握等はされているが、学校での取り組みをより大事にしていかなければならないと感じている。

(G議員)

- ・ 小野小学校では引き渡し訓練を行っている。自治会は小学校に入れるようになっているので災害時の避難所対応に問題はない。
- ・ 市役所に勤務していたH21年の災害のときに避難を呼びかけした地区が浸水せず、危険な箇所に避難させてしまうということがあった。行政の指示がうまくいかないこともあるので、各地区での判断を信用するのがよいのではないか。

(Dさん)

- ・ 防災公園について何ができていくのか説明がない。遊具などがあるメバル公園は本当に防災公園なのか。江良地区の防災公園はどのようなものになるのか。なるべく早く我々住民に早く情報提供をしてもらいたい。地区の関心は高い。

(C議員)

- ・ メバル公園について補足させていただく。ベンチや大型遊具が災害時に防災機能を持つようにしている。それらの機能が玉祖地区の防災公園にどの程度備わるかはわからないが、しっかりと市に要望していきたい。

(H議員)

- ・ 玉祖地区の防災広場については令和4年4月29日、30日に説明会が行われているが、今後も丁寧に説明させていく。

(A議員)

- ・ 県は最初、腰が重かったが、現在は地元から声があがれば、説明に行くと言っている。要望があるのであれば、自治会長を通じて市に要望していただければよいかと思う。(情報提供)